THE WOMAN'S WEEKLY

第三巻 第二十六號

大正六年六月廿九日發行（毎週金曜日發行）

大正四年十一月四日 第三種郵便物認可

# 婦人週報

目次

□今後の愛國的運動……小橋三四子
□時事選評
□我が國婦人の自由なりし時代……文學博士佐々政一
□面接問の五分間「濱尾男爵夫人」……記者
□いろ〳〵の社會「繩暖簾に入る簡易生活の人々」……民子
□母の一心から生れた事業……I子
□讀者から
□新藝術突物語「炭とマッチ」……近藤浩一路
□女の先生の印象「青柳小學校」……K子
□皐月晴れ……濱田新雪
□生れ付きの容姿を變へる表情術……山村郁子
□中元の贈物……柳八重子
□キルクの數物……記者
□暑氣の此頃喜ばれる食物……某食通
□オハナシ「自然兒」……琴子
□世界の子守唄
□小説 雜草……茅野雅子
□新刊紹介
□東京だより「金魚賣り」……民子
□時事……編輯室より

定價一部四錢五厘 郵税五厘

婦人週報社



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

# 上品で役に立つ理想的の婦人雜誌

## 七月號內容でも外觀でも他に類のない雜誌

## 本月も賣り切れぬ內今スグ御求めあれ

# 婦人雜誌

既に出來 各書店にあり

□ゆあみの後（石版彩色）……田村彩天筆

□夕ぐれ（石版彩色）……宇崎純一筆

**口繪寫眞**

◎浮べる舟 ◎紫雲の上 ◎松籟の音 ◎投入れ花のいろ〱

◎前露西亞皇帝の御家庭 ◎栖燕るあした ◎肉の切方 ◎此の頃の髮かたち

**讀者文藝**

◎短文 ◎長詩 ◎和歌 ◎俳句 ◎おとづれ ◎萬年筆 其他

◎進一步退一步……文學博士 幸田露伴

◎（マルタより）……小林愛雄歌 フロトー曲

◎戰爭と婦人……蜷川新

◎（涼風）……スミカメ

◎婦人運動と男女の差異……文學士 米田庄太郎

◎山川總長の御演說を評す……バチエラー、オブ、アアツ 高野重三

◎（鳥の囀り）……スミカメ

◎婦人の自立と自活……文學士 長谷吉

◎勉めて社交の時間を作れ……狄野佳子

◎生活に瞬時も缺けぬ物質……長井博士

◎（鏡）……心 淵子

◎女性の消極的感情を矯めよ……法學博士 鈴木郁子

◎嵯峨の新綠……文學士 成瀨無極

◎釋迦牟尼の母……鏡浦庵

### 母體の改良

▼母體の改良二案……安部磯雄

▼母體の改良と食物……吉岡彌生

▼母體改良と氣分の開放……宮田修

▼獨逸婦人の步行運動……青山醫學博士

◎普光寺婦人會春季大會（記者）◎私の好きな夏姿（森作湖仙）◎海外特信「學校生活」（大呑久子）◎客用便所の設計（三浦元秀）◎七月の客膳（手塚かね子）◎七月の惣菜料理（櫻井ちか子）

◎（長篇小說）彼女の一生……田村俊子

◎（小說）お通夜……五明倭文子

發兌 東京市神田區駿河臺鈴木町 婦人雜誌社 電話本局 三一八五番 振替東京 三三一六〇番




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 今後の愛國的運動

**口露國避難民の窮狀**

過般米國人ホイットモーア氏は、交戰國を巡遊して、露西亞に至り、獨兵侵入の爲め、身を以て逃れたる避難民の悲慘なる狀態を目撃せられ、同情の念に堪へず、日米兩國より援助を與へんとして、去る一月中來朝せられ、第一回寄贈金品を彼の地に携へて慰問に向はれました。同氏は近日中再び來朝の筈で、我が東京に於ては其の委員の一人なるセエレセフスキー女史が熱心其の主義に盡瘁せられて居ります。女史は至る處に其の雄辯に托して、同國民が戰火に滅び行く祖先の地を離るゝ光景や僅かに家畜と共に貨車に運ばれて、他郷に移さるゝものゝ行き着く先きは、同じ避難民が溢るゝ許りで、眠るに軒無く、寒風を防ぐ襤褸さへも盡きて、毛髮を首に卷いて慄へて居る者や、一椀のスープを貰ふ爲めに何時間か立ち盡して居る頼り無き人々の有樣を目に見るやうに語つて、我が國人の同情を呼び醒して居られます。

**口今後の諸外國との親善**

交戰國でありながら、我が國は幸に未曾有の盛運に向ひ、諸物價騰貴に拘らず、一般に非常な好況を呈して居ります。此の時に當り、隣國にかやうな悲慘な狀態に陷つて居る國民のある事を氣付かずに過して居る者が多うございます。然し一と度其の哀れな國民の立場に身を置いて考ふる時は、一と握りの米や麥も、古シャツ一枚を與へらるゝもなほ忘れ難き惠みでありませう。日露協商や、日露の外交が、政府と政府との間に形式的に成立するものと思へば、大きな間違ひであります。名も無き一人の老婆を助けた爲めに、幼兒と共に慄へて居る婦人に一枚の着物を着せてやつた爲めに、彼れ等國民にどれ程日本人の親しむべく、尊むべきかを思はしむる事が出來るでありませう。今後の外交や國際的親善は、國民同士が眞に隣人の親しみを重ぬるにあります。從つて今後の愛國者は、單に自國の利益を圖るのみではなく、我が國民を愛する如く外國民を愛する人でなければなりませぬ。即ち世界を人類的に愛して行く人でなければなりませぬ。

**口戰後に起る平和運動**

今回の歐洲大戰亂によつて、文化の國民等が、其の智略を傾けて、野蠻性を發揮する戰爭がいかに恐ろしい禍を、人類の上に及ぼすものであるかを思はぬものはありますまい。野蠻時代には自衞の爲めに戰爭の必要もあり、またこれによつて或は彼れ等の進步を計る機會を與へたかも知れませぬ。然し今日はこの消極的に注ぐ力を成るべく節約して、無限の宇宙を啓く爲めに、人間の偉大な力を蒐め使ひつゝあつた文化でありました。今や向上しつゝ進める列强の國民は、方向を一轉化して、暫らく其の力を人類同士の間に蟠る醜い心情を滅ぼす爲めに用ひて居ります。そして戰後の列强は如何なる傾向に向はんとするでありませうか、この野蠻性は再び人類の間に蟠るであらうか、さらばこの上ない禍であります。列强はいかにもして戰爭に訴へずして、互に理解し合ふ理想の國際狀態に進ませなければなりませぬ。それには國民の女



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云はず、子供と云はず、擧國一致して平和運動に向ふ事が急務であります。

口世界的に交通する機會

平和運動と云へば大きな事、縁遠い事と思つて、之れを省ないのは誤りであります。世界的に交通する機會は幾つもあります。今日白國民救濟の擧に心ある一錢を投ずるも尚ほ世界の平和を希ふ立派な心の表はれであります。露國避難民を慰安する爲めに、二枚の衣を一枚脱いで與ふるも、亦美はしい國民同士の親善であります。殊に我が國には兒童をして公共事業に金を投ずる事を教ゆる機會が乏しいのを恨みと致しますが、今回のやうな世界的の企てに、兒童の貯金を投じさせるのは、其の教養上に、必ず好結果を與へる事にならうと思はれます。

口我が爲めにも教養

今日俄かに富んだ我が國家も、もしこの富を我が一身一家の驕りの爲めに費すやうでは、却つて國家の危機を醸する源であります。婦人も亦其の富に飽かして、綺羅を身に纏ひ、愈よ装飾品化して眠つて行くやうでは、是から寸時の先きさへ案じられます。もし其の虚榮を避け、其の費用を投じて他國民の塗炭の苦を救ふ事が出來れば、其の國民の幸ひ斗りでなく、施す人自身に引締つた心と、廣い同情とを與へて、得難い教養を受け得らるゝ事になりませう。(三四子)

露國民救濟委員のミス、セェレセフスキー女史のお宅は東京麹町區上六番町三十六番地です。ハンケチ一枚でも古靴下一足でも御寄附下されば、有難いとの事です。讀者の皆様方もどうぞ援助してあげて下さいまし。寄附の金品は直接同所にお送り下すつてもよし本社からお取次してもよろしうございます。

# 時事週評

口英國婦人遂に勝利　久しい歳月と高い幾多の犠牲を拂ひつゝ奮鬪して倦まざりし英國婦人參政權論者の勝利の時は遂に來ました。今回愈よ五十五對三百八十五の多數を以て、婦人參政權は下院を通過しました。同國婦人の喜びはどんなでありませう。内に實力を蓄へ自由解放の氣が充滿すれば外も亦之れに伴つた境遇を作らなければなりません。兩々相揃ふた同國婦人の今後の發展は、驚くべきものがありませう。

口愛國婦人會會長定る　久しく行き惱みし愛國婦人會長は、今回愈よ男爵夫人濱尾作子刀自に決定、副會長として小笠原貞子の方が擧げられました。經驗に富み、徳望高き濱尾會長は必ずやこの國家的婦人會を率ひて、現今の時勢に適應し、諸種の要求に應じて、活動を開始せらるゝに至るでありませう。同會にして一つの精神さへ動けば、如何なる大事業をも爲し能はぬといふ事はあるまいと頼もしう思はれます。

二

口神近市子の上告　東京控訴院にて二ヶ年懲役の宣告を受けた神近市子は、これを不服として更らに上告に及びました。己れを知る者であつたら、二ヶ年位の刑には服すべきが當然でせう。却つて上告して不結果に終られればよいがと思はれます。

口米價奔騰　五月下旬以來梯子上りに騰貴した期米相場は數日前廿三圓六十九錢といふ開闢以來の高値に達しなほ天井知らずに奔騰する由です。即ち二ヶ月前の殆ど倍額に上つたのです。これは陸も海も運輸機關の不足して居る爲めと、好景氣で國民の消費が高まつた爲めであると申します。目前に米價調節の問題も必要ですが、もつと根本に立至つて、萬一非常な場合外からの米を絶たれたとすればどうするか、かうして起る食糧問題には、婦人は最も深く心を用ひなければなりません。白米の飯を、副食物と共に、日に三度宛、食膳に上せる事が、もう破るべからざる不文律のやうに考へる事を先づ改めたいものであります。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 我が國婦人の自由なりし時代
## 物語に現はれたる婦人の地位

文學博士　佐々政一

### □王朝時代は男女對等

武家時代に於ては、婦人の人格を認めぬ處より、戰ひにも婦人は捕虜に數へず、分捕品としたものであるが、物語に現はれた時代、即ち平安朝時代には、寧ろ男女の地位は對等に近いものであつた。その原因を探ねて見れば、凡そ次の五つに歸するであらう。

### □情の文化

第一　平安朝時代は、道理や道徳よりも情を重んじた文化であつたことが、婦人の勢力を作る上に、最も有力なるものであつた。當時は男女を問はず、物のあはれを知ることが人間の資格の最上のものとされて居つた。西行の「心なき身にもあはれは知られけり、鴫立つ澤の秋の夕ぐれ」といふそのあはれである物のあはれを解する事が出來ぬ者は無風流な、紳士として立派に修養して居ないものとして居つた。それ故平安朝の政治上の立役は皆好男子に描かれ、名女才媛は皆美人に作りなされて居る。增鏡は後醍醐天皇を秀麗優雅な御方のやうに書かれて居るが、同一記事を武家趣味で書いた平家物語には、いかにも剛毅な偉丈夫に描き奉つてある。當時はあらゆる方面の人が感情的な軟らかな處がなければ、實際上勢力を得られなかつたと見える。例へば平淸盛は、平家物語には意志の權化のやうに描かれてあるが、實證記によれば好男子の極めて穩やかな人で、情に厚く、身分の高下を問はず、情けをかけたので、萬人が靡き從つたとある。光源氏の如きは武家時代であつたら不埒千萬な男であつたらうが、彼れの如き情に脆い人が、善人であり、同時に美しい人とせられて居つた之れに反して同情心の乏しい、理性的の人は、却つて惡人とせられた。

### □戀愛尊重

從つて感情の陶冶には骨を折り、教育と云へば歌を習ひ、琴を彈き、書をかく事で、これ等は技藝として學ぶより、寧ろ感情の陶冶が主であつた。殊に音樂は最も重んぜられて、戀を爭ふ場合も音樂の天才に、其の勝利が歸するといふ有樣であつた。戀は武家時代には只餘儀ない事として恕せられはしたが、權利は認められなかつた。平安朝時代には風流の事として大家の戀歌が堂々として勅選集にのつて居る。かやうに温情や、純乎たる感情が尊ばれた處から、異常な物や怪談は喜ばれず、源氏物語の如き、日常生活を描寫して好奇心をそゝるやうなものは全くない人情小說が喜ばれた。今日から八百年前、世界の何處の國にさういふ種類のものが讀まれたであらうか。日本はそれより一二百年も早くかやうな物語類が讀まれたとすれば、其の進歩は無類と云はねばならない。

### □財產を持つた事

第二　に女に財產のあつた事は又婦人が勢力のあつた所以であつた。大寶令の遺產分配法によれば遺言狀のない財產は諸子均分、其の他は母と長子が各二分、他は一分、女は其の半分を受ける事になつて居つた。女は表面

三



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

上額が少いやうではあるが、親の分配を受けた上に、場合によつては夫の遺產を受けるので、事實上餘計財產を持つことになる。桐壺の更衣が父は大納言で金持ちではなかつたが、母は「古への人のよしある人にて云々」とあるのは母の家系が立派で財產を持つたから女の世話を充分したといふ事である。後世の持參金は王朝時代の傳習であつたそれ故王朝時代には上流の婦人は、京都の外に山里即ち別莊の一つ位はどんな貧しい人でも持つて居つた。當時は多妻主義であつたから、女が死んだ場合、其の生んだ子を夫の家に送れば繼母の手にかけなければならぬといふので、祖父祖母が養ひ、其の子は母の遺產と共に祖父祖母の遺產をも受けるといふ風であつた。

□個人的の傾向

第三は個人的の傾向によつて婦人の地位が高かつた。古代にあつては職業を同じくした者が部落を作つて互に勢力爭ひをしなければならなかつたので、個人よりも團體の勢力を重んじたが、平安朝は、藤原氏が獨占して、他の種族を省る必要がなかつた爲め、種族の觀念乏しく、血緣さへも甚だ疎遠であつた。從つて叔父甥が讐敵となつたり政權爭奪をしたりする事は稀らしくはなかつた。從つて新らしい夫と妻とが結合すれば、其處に最も親しみが生じ、外の親屬とはかけ離れて終ふ。家族主義では女は往々子を生む機械として迎へらるゝが、王朝時代では全く異つた意味で家を成したのである。

□結婚の際の女の意志

第四は結婚關係によつて王朝時代の婦人の權威は强かつた。王朝以前は、掠奪結婚で、勇士が目ざす女を手に入るゝのであつたが、王朝時代は、かの竹取物語に現はれて居るやうに、女の意志によつて定つた。古語に妻を娶ることを「よばう」と云ふが古學者の說によれば、妻を娶るに當つては歌を作り、その歌をうたつて女の家の前を通り先方に意志を通じて其の承諾を求めたものであつたといふ。王朝時代には上流社會はその歌を手紙に書いた、この爲めに當時の和歌の半は發達したと云つてもよい。當時の戀文は社交の具で、有名の女には誰れも彼れも手紙をやつたものである。それ故清少納言は「懸想文でも色をかくして返事を書くがよい」と云つて居る。最初は謎のやうな歌を送り、之れを解けば其の意志を受け容れたのであり、解かねば拒絕の意味になるのであつた。

□婿入りと再婚

愈よ結婚の意志が成立すれば男自身が女の家を訪ねて、几帳を隔てゝ物語るので、これが今日の見合のやうなものである。翌朝男から手紙が來るが、これが結納で、女から之れに返事を與へると、三日目に愈よ處あらはしが行はれて、双方が眞正面に顏を合はせるのである。からなる迄親は一向顏出しをしないのである。處あらはしの際・人違ひであつた滑稽などが、往々描かれてある。扨いよ〳〵結婚してからは、婿入りあつて嫁入りはなく、婿の方で通つて來るのである。入內は例外であり、また光源氏が紫の上を迎へたやうに極く貧乏で親の家がない者は、直ちに夫の家に入れる事もあるが、それは極く稀れである從つて夫はお客樣で、妻は主人であるから、其の權力の强いのは當然であつた。且つ夫妻の年齡關係もめちや〳〵で、甥と叔母とが夫婦となつたり、女のやうな妻を持つたりする事は、世間の怪しむ所ではなかつた。貴族に於ては常に女が年上で、宮中では之れを御そひぶしと云つた。藤原氏が幼冲の天皇に年上の后を入內させて、后の陰に在つて、常に政治を自由にして居つたなどは、かゝる結婚制度を



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

朝廷の權力を得る上に應用したものであつた。また當時は再婚が自由であつた事も婦人の勢力を高めるに力があつた。初めの結婚を誤つた者、夫を失つた者などが、地位あり、名譽ある處に再婚して居る者が尠くない。

### 口女房の勢力

第五に宮中に於ける女房の特殊の勢力、換言すれば後宮の勢力である。道長の如き其の女上東門院の生み奉つた幼冲の天皇を立て、蔭にあつて專橫を極めた者も、なほ何事につけても、后の裁可を仰いだので、その左右につける女房の勢力は絶大であつた。當時上達部即ち親任官たらざれば地方官たる事が、あらゆる人の羨望の的であつた。それが爲め四年目毎の地方官交代には、女房の許に人々が來て己のが技倆を吹聽し「よきに奏し給へ、よきに啓し給へ」など頼む人が多くてうるさいなど、枕草紙に書いてある。女房は從つて交際社會の中心で、貞操の如きは亂れて居り、丁度今日の朝鮮の官妓のやうなものであつた。然し清少納言も一度は內侍をやらせ度いと云つて居るが、社交界に起つてはさうして鍛錬したものでなければ役に立たなかつたと見える。

* * * *

以上は婦人の地位を高からしめた原因で、武家主義によつて壓迫を加へられ過ぎた我が國婦人の今後の發達には、大に參照すべき事柄であると思はれる。

（談概要）

五

## 應接間の五分間

### 其の九

# 愛國婦人會長となられた 濱尾男爵夫人

▲久しく問題になつてゐた愛國婦人會の會長には、とう／＼元の副會長である濱尾男爵夫人作子の方がなられることに定まつた。夫人を眞に知るほどの人は等しく適任だと言ふ。全くその平生の言行に照らして見れば、決して僞りでないことが分る。私は今日までの數々の思ひ出と印象とを、飾り氣なく書いて見る。

▲會員百幾十萬と呼ばれる大きな會の會長に押されるその夫人は才氣の彈けるやうな其樣な才子でもなければ、人を魅するほどの愛嬌を振りまく方でもない。從つて鼻先きあしらひの其の場限りと言ふやうな應接などは到底なし得ぬ、何處までも眞面目で、素直で、眞實のこもつた、高潔な方である。三四の婦人の團體の重要なる位置にゐられるが、ある時、此樣なことを仰有つたことがあつた。

▲『日本の婦人にはまだ團體と言ふものゝ眞の價値は知られてゐないやうな氣がする。そしてその團體を愛する心が乏しい。婦人の團體の集りの時は、まづ第一に通知を出し、そしてその期日に近づいてから電話で出席の有無をお尋ねしなければならない。萬一幾度か出席がなくて色々のことに差し支へるやうな場合に、會の內部の人員に變更でもさせやうものなら、忽ちそれが逆鱗にふれて不穩になる。全く六ケ敷しいものだと思ふ。』と。また特に愛國婦人會のことに就いては、

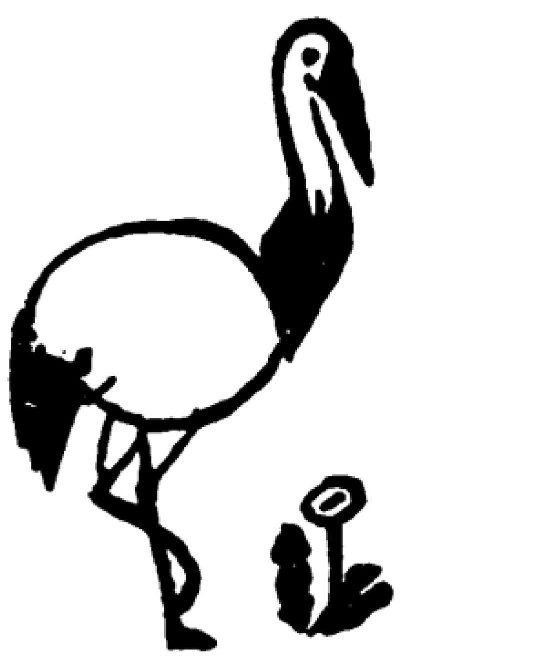
▲『多くの日本の女の中には自身會員でありながら、愛國の何物なるかを知らないものもある。であるから會員となつた爲めに會費だけ餘計な出費だと文句を言つたりするやうになる。奧村さんは半襟一掛と言つて誘導されたが、私は、會員各自に愛國の精神を深く、強く、吹き込んで置きたいものだと思ふ。』と。

▲愛國婦人會は世界でも有數な會員を有し、その集つてゐる金員も莫大なものを、たゞ積んで置くばかりで殆ど使用しないが、と言ふ人があつたら、夫人は、

『あれほどの大きな會でございますもの、萬一大事件が起り、夫れに附隨して仕事をせねばならぬ場合に、少し位ゐは平素積み立てゝ置かなければ有用なことが出來ないからでございます。』と仰有る。夫人は會の目的を遠大な理想に結びつけて、その發展を期してゐられる方である。同時に家庭のことも眞面目に處理なすつてゐる賢夫人であられる。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



## いろ〳〵の社會(十一)

# 縄暖簾に入る

### 簡易生活の人々

△お米の値が騰ると不思議に一ぜん飯屋が繁昌する、と言ふてとは久しい前から聞いてゐた。が、太い縄暖簾がユラ〳〵と朝風に揺ぐ一ぜん飯屋――、酒樽の上に腰をかけて、小丼で山盛りの飯を食べる、と言ふその至極お手輕な、平民の立食所なるものは、同じ平民の身ながら、長い〳〵間、到底覗き得ない所と半ば諦めてゐた秘密な場所であつた。その秘密の扉は、ある日、一人の友達の助けによりて開かれた。遠い別世界だと思つてゐたその世界は、私の眼の前に展開される。

△私の行つたのは芝の櫻田本郷町の近くにある電車通りの大きな飯屋であつた。間口は二間半もあらう、縄暖簾の奥の障子に○○屋と筆太に屋號が記されてある。幾度かその店の前を行つたりもどつたりして、遂に思ひ切つて暖簾をくゞつて這入る。店の中は可成り廣い土間で、向ひ合つて腰かけられるテーブルが二列並らび、十人ばかりの男の人が、頻りに箸を急かしてゐた。入口の左の方は上座なのでもあらう、奥行三尺通りに床をはつて簾の子を敷き、小さいチャブ臺を据ゑつけて黄色な大名縞の座布團が並らべてあつた。夫れは朝の七時十分過ぎの事である。私達は、まだ若い、鄙びた裝ひをした朴訥なねえさんと若い男の人とに迎へられて座布團の上に坐る。

『お誂へは』と訊ねたのも知らなかつたほど、私はぼんやりと奥の方を物珍らかな眼を光らして眺めてゐるのであつた。店と奥との境には格子戸があつて、『はんぺんのお煮付け、』などゝ給仕の女や男が呼ぶと、盛方の男が格子戸前の臺の上に、色々の誂へ物を盛て出すのである。格子戸の上の鴨居には、物價表が書き出してあつた。煮付け二錢、汁物一錢、飯三錢、香の物一錢、燒魚五錢、さしみ十錢、などゝ。

『此の外に何をとりませう。』とさう友達に言はれてチャブ臺の上を見ると、尺二のお膳の上に小丼に盛つた飯が二杯と、椀に盛つた豆腐汁が二杯、それに小さな茶碗が二つとキャベツの香の物とである。小丼に盛つた飯を見ると變な氣がする。何もかも初めてゞある。

『何が宜いでせう、』とさう言つて土間にゐた連中の膳の上を見下すと、最初に見つかつかのがガンモドキの煮付けであつた。

『がんもどきに致しませう、』と言つてまた注文する。來たのを見ると大きながんもどきを丸のまゝで煮込んだものである。此の外に生玉子、きやべつの煮付け、芋の煮付けなどもあつた。私達は御飯など一切で一人前が七錢ですんだ。

△恰どかうしてその店に坐つてゐたのは四五十分間であつたと思ふ。その間に出入した客は二十人を越えたけれど、その大半は制服を着た學生で、殘りの人は會社員らしい人、職工らしい人などで、印半纏の人は一人も見當らなかつた。五錢ですまして行く人もあれば十錢ですまして行く人もある。幾人來ても、互に隣り合つて坐りながら親しく口を利き合ふ人もない。みんな默つて食べて、默つて去る。一錢の香の物に一錢の汁、此の社會では一錢のお金も大役をつとめてゐた。朝は六時頃から八時半頃まで賑ふと言ふ。近頃は時々會社員らしい人の夫婦ものが姿を現はすさうである。世の中も變つて來た。(民子)



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 母の一心から
# 生れた事業

レッテル問屋の杉嘉久子夫人

＊＊

シャツの衿につける小さな布切のレッテルを織り初めて、一度全く倒れた家を再興しながら三人の子供を敎育しつゝある婦人がある。生れは伊勢影山の人杉嘉久子さまと言つて本郷の動坂下に住んでゐられる。動坂のその家は御住宅であり、工場でもあるのだ。レッテルは盛んに外國へも輸出されてゐるとも傳へ聞いてゐる。私は或る日お訪ねする。お宅は門を這入ると直ぐ玄關であつた。入梅晴れの日であつたので、玄關には傘が三四本と足駄とが散つてゐた。十五六かと思はれる少女が取りつぎに出られる。

『奥樣に、』とさう言つて勉めて愛想よくお願ひすると、默つて奥へ引つ込まれたが、暫くして出て來られると、またの日にお越し下さいとの事である。强ひてお願ひすると、やつと夫人は出て來られた。本日までの御苦心を一寸でいゝからお伺ひしたい、とお願ひすると、

『本日は客が參つてゐて、二人で仕事をしてゐるじ致しますから、また他日御越し下さいませ』と、さう仰有る。

「また、あの若しも書いて頂きたいやうでしたら、此方から改めてお願ひいたしますから、その日にお出で下さいませ、お所も名刺で分つて居るし致しますから、……、』と、お斷りなすつた。そして、

『私は公共事業にでも働いてゐるのなら人樣にお話しても宜しいのですが、唯單に自分の家の爲めの業で、しかも自分の貧乏を廣告するやうですから。』とのみで、何も話しては下さらない

お年の頃三十七八、或は四十かとも思はれるデップリと女には珍らしいほど太つた、氣象の勝つたらしい方である。紺飛白の單衣を召して髮は前髮もとらずに束髮に結んでゐられた。工場は家の奥まつた室で、カタンコトン、チャリン〳〵とレッタルを織る音が玄關までハッキリと聞える。杉さんが今日になられるまでの苦心の跡を或る人は語る。貧乏を廣告するやうで、人と嫌られるけれど、貧乏しても人にたよることなく、力强く自分の力で働いてゐる人に何の恥しさがあらう。眞に恥しく嫌なのは、他人の力によつて生きる人の上である。とさう私は信じてゐるから．從つて聞いたまゝを書くことにする。

＊＊

『杉さんはその前半生を殆ど苦勞と言ふ苦勞をし盡されたやうな方であります。初め伊勢の影山から横濱の叔母さまの許に行つて、夫れまでは割合に幸福につ女の諸藝を一通りお習ひなすつたのであります。それから緣あつて結婚なすつたのが今の良人であります。御良人は名古屋の人、この若い二人は、御良人の兄君に當られる方をお助けして綿布輸出を初められたのです。二人は主として仕入の方を受け持つてその產地なる足利に居を構へ、手廣くやつてゐられたのでございます。が人間は自由が利くと虫のつき易いもの、不幸にも杉さんの御良人も紅燈綠酒の巷に踏み迷はれたのです。罪なき笑ひに親の心をえぐるいとしい子供はあるし、家業はある妻の赤心でもう一度良人をもとの眞面目な方にしたいものと、明け暮れ神佛に祈つて努められたけれど、その心も通じなかつたのか、杉さんが女の手一つに三人の子供を抱へて都に上られた時は、既に貯へも殘り少ないものとなつてゐました。その僅

七



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かな金が四人の運命を握つてゐると考へられた時は、もう暫くもジッとしてゐられなくなりました。うつかりすれば破滅に陷らねばならぬ破目になるからであります。とは言へ一人として知人のない地のこと故全く途方にくれ、夜を日についで他家の縫ひ物などをなすつたのです。けれど夫れが何程になりませうか何かよき方法もがなと眠られぬ夜な／＼考へて考案されたのがレッテルでした。それは大正元年のことです。』と言つて息をつかれた。

＊＊＊

斯うしてレッテルを發明したものゝ、誰れ一人、相手になつて耳を貸す人がない。杉さんは、世の中には眞面目にものを考へる人はゐないのか、と疑ひ出されるほどに失望なすつたのである。が努力の前には何時か途が開ける。とう／＼時は來て、近頃は十人からの女工が終日カタンコトン、チャリン／＼と忙しく織つてゐる。一人の一日の織り上げ高は分らないが、兎も角も大商店や問屋との取り引きに忙しい。そして三人のお子樣の教育には非常に苦心され、一人は京華高等女學校へ、一人は順天中學へ、もう一人は千駄木小學校へ通させ、英語の家庭教師までつけてある。御良人とは全く絶縁の姿ながら離婚は出來ないとかで、毎月その生活費まで送つてゐられる。女は弱し、されど母は強し、と言ふ。子を愛する母の眞心は、不思議な力を生んで不可能と思はれることも可能ならしめ、偉大な力を子供の心の上に、社會生活の上に現はすものである。貧しかつたことは恥ではない。蔦葛のやうに人にもつれて生きてゐる下劣な女こそ、最も恥しい人達であると言はねばならぬ。杉夫人の如きは、全く眞に生きつゝある人であらう。（了）

## 讀者から

芝の讀者から「前號揭載の天才の家系中、山崎安齋の感化遺傳の項を見て感じたるは、余の安齋先生より享けたる感化遺傳なり。かの『ふまれても根強く忍べ路芝のやがて花咲く春に逢はまし」と。思ふに余のみならず、天下の衆民、これによりて立身せしもの尠しとせず、余はこれを師とし「何事もゆるしゆるしてゆるされて世の波高く亘りかれける」と生活致し居候▲芝栄

秋山あき子樣より「週毎に御誌を手にして、僅かなる紙數の中に、みつしりと實のある記事のみを掲載してあるが嬉しく、當地の如き無趣味の場所に住居致す私共にとつては、實に何よりの讀物にて、他の雜誌は讀み殘り候記事多く候も、婦人週報のみは如何に忙しき身にも、一行も殘さず讀み始め讀み終り居候。少しにても多くこの幸福を人樣に頒ち度と存じ居候も、高尚な讀物に向ふ人の尠きは嘆かはしき處に候」

## 新舊衝突物語（終り）

### 炭とマッチ

近藤浩一路

若い婦人は何でもかでも瓦斯を利用し、マッチを使つて夏向の家庭を處理しやうとするので火鉢は不用になつてしまうが、年寄は夏でも火鉢に火の氣のないのは家の不吉とあつて、火種をたやさぬことを主張し、此處に炭とマッチの衝突がはじまる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 女の先生の印象（四）

## 讀み方の復習

### 青柳小學校にて

今秋は小學女教員大會が催されると言ふことである。女教師が小供の教育に適不適と言ふ議論は別として、私は此處しばらく市内各區の小學校を廻つて、突き當りばつたりに女の先生の教授振りを拜見して、その印象記を書くことにした。

▲小石川音羽の奥、護國寺前の青柳小學校へいつたのは、土曜日であつた。此の學校は生徒が多いので午前午後一ヶ月交替の二部教授になつてゐる。私の見た授業は三年生の午前の組の一つ、讀み方であつた。少し豫定よりも進みすぎたからと先生は仰有つて、もう習つて了つた所を復習させられる。一つの章は野見宿禰と當麻蹴速とのことを描いた歴史的のもので、蹴速と言ふ男が日本ぢうに俺よりも強い奴はゐないだらう、と甚く鼻を高くして獨天狗になつてゐる所へ、宿禰と言ふ智能萬人に優れた動作の敏捷な人が現はれて一たまりもなく、蹴負したと言ふ話しが書いてあり、もう一つは雲雀の生活を面白く寫したものであつた。平假名の練習の爲めに所々に平假名が書いてある。初めに平假名の書き取りをさせて、そして問答になつた。

▲先生『蹴速はどんな人でしたでせう。』
生徒『自分の力を自慢する高慢な人でありました。』
先生『では野見宿禰と言ふ人はどんな人でしたか。』
生徒『偉い人でありました。』
先生『偉い人？さうでしたかれ。』
他の生徒聲をそろへて、『はしつこい人でありました。』
先生『さうです、はしつこい人と書いてありましたれ。その蹴速と宿禰とは何をしましたか。』
生徒『角力をとりました。そして蹴速は宿禰に負けて人に笑はれました。』
先生は微笑なすつて、『大變丁寧な答へですれ。角力をとつたと言ふことだけで宜かつたんです。ぢや何故蹴速は人に笑はれましたの。』
生徒『日本ぢうに俺よりも強いものはゐないと言つて、平生自慢をしてゐたのに負けたからであります。』
先生『よく答へられました。蹴速は自分のことを自慢し過ぎてゐたからですれ。』と言ふやうな事であつた。先生の問ひは順序よく發せられる。生徒は明晰な言葉で氣持ちよく、キツパリと答へるのであつた。

▲宿禰の話が終ると雲雀の章に移つた。先生と生徒とはまた問答を始められる。夫れは、麥に青い穗が出る頃雲雀が來て大空を囀り飛ぶこと、雲雀の巣は麥畑の中にあつて、雲雀が大空からその巣の中へ降りるには、一旦巣からずつと離れた地に降りてから、他の者に見られないやうにそつと土の上を飛んで巣の所へ行くこと。大空へ上るときには巣から眞直ぐに飛び上ること、巣には卵があつてやがて雛にかへることなどであつた。そして先生が、

『雲雀が地上へ降りる時にはどんなにして降りるのでした。』とお訊ねなすつたら一人の生徒が『黒い石が轉り落つるやうに早く飛び降ります。』と答へて先生を喫驚させてゐた。その形容は本にはないから、何かの雜誌で見たであらうとのこと。先生は生徒の取扱ひに慣れたらしい方、竹早町の師範の出身であられた。小さい子供を四十五分間の課業に倦せないやうにするには可成り考へを要します、と仰有つてゐた。雲雀の話が終ると雲雀の歌を歌はされる。

ピイ〳〵〳〵と囀る雲雀
轉りながら何處まで上る
高い〳〵雲の上か
聲は聞えて見えない雲雀

生徒は足踏みをして踊るやうな格好をして歌ふ。欠伸をする暇もなくてとう〳〵一時間を了つた。（K子）





Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 皐月晴れ

薄田斬雲

□ 六月廿四日、今日は日曜で、久しぶり青空を眺め、今年に入つて始めて夏らしい氣分を得た

私は初夏の景を愛する、今に豐富な、陽氣な、熱い眞夏が來るといふ期待は私に取つては一年中で最も充實した樂みである

□ 「夏の眞盛りでも水の端より火の端が好い」といふ諺がある人間は寒いよりは熱い方が良いのだ。其の結果が、手を燒き身を燒き一命を燒き棄てる羽目に陷るとしても、冷然行路の人として過ぐるよりは、燃ゆる如き腐れ緣を結び得た者が尙ほ幸福であると言ひたい。人は情に生きるといふ、つまりは熱に生きるのである。□

私は極地に住んで氷の上に凍ゆるよりは、赤道下に住んで熱氣に鎖されて蒸れ死にしたいと思ふ。

□ 熱い夏は寒い冬よりも凌ぎにくい。夏は病氣に罹る虞れがあつて健康上には冬よりも甚だしく危險である。併し私は冬になると、三寸萎み切つて思想も趣味性も凡て、凝結し、半ば死んだ人の樣な心地になる。夏は熱くて苦しいけれども限りなく暢氣だ、蒲團も枕もない室の内へ伸び放題身を伸ばして寢轉んだ氣持は萬金の値がある。

□ 冬は苛察な嚴師の如く、夏は氣心の合つた仲間の如くである嚴師の下には過失が無い、氣心の合つた仲間の間には得て失敗が伴ふ。然し人間は窮屈に嚴師の下に戰々兢々として唯だ過失なからん事をのみ考へて居る位なら誠に詰らない生活で生存の價値がない、出來る丈け樂しく氣樂に安易に此の生を終りたいものである、然し夫れが出來にくいものであるにしても、其んな生活を空想に描いて憧がるゝ丈けの餘裕ある生活をしたい、どんな熱望する物でも一旦手に入れて見ると案外詰らない。併し始めから之を得る望がないとなると、人間は慾望を杜絶された事になり寒岩枯木の生甲斐もない生活になつて了ふ、之を得らるべきの可能性があつて而して容易に得られぬ處に人生の妙味がある。

□ 北人南下して覇權を握るの現象は、世界の歴史を一貫して居るといふ。寒い土地の人間は剛健にして覇を建つるに適するのであらう。然し世界の文明は多く熱い土地から發生したものである。印度、埃及、小亞細亞の文明が最も古いもので、次で希臘、羅馬の文明となつた、皆な是れ南方熱地である。水の端より火の端が好い意味も是に在りそうだ。

□ 冬は固定して變化が少ない、夏は變化に富む事夥だしい、夏は一日の間に容易に春秋冬の氣分を味はう事が出來る、瀕水河川に浴して身體を冷やすと、寒くなつて冬の氣分を味へる、流汗淋漓たる處へ一塊の氷を含んだ氣持は冷熱相戰ふ大變化ではないか、一日の間、忽ち熱く忽ち寒く、極端から極端迄容易に試みる事が出來る。

□ 熱い夏には、思ひ詰めて悲觀するといふ壓迫がない、夏は解放した姿である、木戸放樂の象である。大休息を賦與された氣分である。私は夏を以て人間が一年の氣詰りや心の凝りを放散すべき休息時と見る。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 生れ付きの容姿を變へる表情術

## 子供を育てる上に經驗

山村郁子

山村夫人は日本女子大學校卒業後、米國に留學して表情術を研究し、其の技術は學校に於て常に同國人を凌ぎ、一二の席を爭つて居られたさ申します。歸朝後間もなく醫學士山村正雄氏に嫁して、全く家庭の人さなられました。然し今年五歳の愛孃を育てる上に、昔の蘊蓄を傾けて居られます。

□頸筋の瘤

世の何れの母でも、我が子が精神上にも肉體上にも、美しく且つ健やかなものであつて欲しいとは希ふ處でございませう。私も娘のれい子が生れた時、どうかしてこの子供を完全に育てゝ見たい、出來る丈けの佳いものを一身に持たしてやりたいとぢつと顔を見て居つた時、赤兒の頸筋に、瘤のやうなものを見出しました。良人が申すには、これは三四歳になつたら手術をしなくてはと申しました。私は女の子の大切な頸筋に疵を拵らへなければならぬかと、悲しくて悲しくて、泣き明かし泣き暮した揚句、親の一心でどうかしてこれを癒してやらうと決心しました。

□眼瞼の運動

それから毎日眠らせ乍ら其の頸筋を一心籠めて撫でゝやる事にしました。すると成長するに從つて其の瘤は跡形もなくなり今日では全く癒えて參りました。

これは健康上の事ですが、この兒の顔容を見ると、眼瞼が腫れて居るやうに重く、口も餘り形がよくない。然し表情術は確かに容貌を變へる事を經驗して居りましたから、物心がつくや否や、この子供に少しづゝ顔の筋肉の運動をさせてやる事にしました。「れいちやん、眼を開いて御覽なさい。さう／＼。もつとはつきり」「さあ笑つて御覽なさい。もつと樂しさうに」などゝ申して、眼の開きやう、笑ひ方などにも注意してやりました。

□締つた口元

口もへの字形になつて居つては、いかにも見苦しいので、「お口を締めて、唇を歯につけてお早うございますと云つて御覽なさい」と云ふやうに、口の周圍の筋肉を働らかせ、口唇のだらしなくならぬやうに氣をつけてやりました。まだ滿三歳にはなりませぬが、餘程顔の造作が變つて來たやうに思はれます。

□眞直ぐな脚

背も成長の後すらりとするやうに、一寸の晝寢にも脚を眞直ぐにして、爪先迄着物をかけてやる習慣をつけました。その爲めか年の割に背が高いと申します。日本人は兎角足が曲つて、子供服を着て長く靴下を穿く場合など、誠に見苦しうございますが、かうして眞直に寢かした爲めか脚も形ちよく延びて參りました。これは形丈けを改造するのではなく、表情術はもと／＼心に一ぱい感情が充ちて居らなければならぬので、其の感情を生かして發表する事によつて、顔容も違つてくるのです。餘り卑しい例になるかも知れませぬが、藝者が雛妓の間は見られた顔ではないのが多いが、一人立ちになる頃になると、あのやうに人を引きつけるに足る美さを持つやうになるのを見ても心掛けによつて、人の顔容ちの變るものである事を證明致して居りませう。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 中元の贈物

## 實驗上重寶した物

柳　八重子

口中元の贈物は毎年同じ事を繰り返しながら、年々新らしく考へさせられる事でございますが、これは先方の家庭及び持ち運びする人に依つて自と異つて行くやうに思はれます。書生にでも持たせて出す時には、嵩ばつたものも宜しいのですが、自分で幾軒も持ち廻らなければならない時などには、矢張り輕い小さい物を擇ぶ樣になります。

口私が只今迄經驗致しました贈物の中で喜ばれたもの、又頂いた物の中で非常に重寶したものを擧げて見ますと、葡萄液、密類など、夏の來客の際沸し冷しなどに一寸落して用ひますのに重寶致します。のし烏賊其の他きのきいた乾物類、吳服物なれば手拭地、或は麻や縮みの白無地ものが喜ばれます。模樣物は相手の趣味嗜好に適ふものを擇ぶことも困難であり、貰つた方でも着られないと云ふ風では切角の志が無になりますが無地物ならば肌着にでも子供の洋服にでも適宜に用ひられて便利です。タホル地の反物等は子供のある家庭への贈物には殊に喜ばれます、又御器用の方なれば、簡單の洋服、エプロン、筒袖又は座布團のカバー（ドロンウオーク又はレースを入れた）などを作つて贈るのは面白い事であります。

口或は自分の趣味から割り出した團扇、扇子、實用向としてはコツプ、アイスクリームの器械石鹸、タホル、ハンケチ、頭髮用の油類、尙ほお金の高にもよりますが、新家庭への贈物としては簡單な冷藏器等は必らず喜ばれるものであらうと存じます

## キルクの敷物

前田醫學博士邸の試み

昔から日本間に敷くものは疊か莚かに相場の定つたものと思つてゐましたが、近頃それよりも丈夫で、安くて、衞生上に宜いものを見ました。それはキルクの敷物です。瓶の口にするキルクと同じやうなものを平らにのべて板にし、そして室に敷くのでございます。疊一疊の大さが僅かに一圓五十錢くらゐ、床板には初めに蒟蒻糊をつけるので雨が降つて土がじみじみした所で、濕氣が上るやうなことはないこと、そして蚤も出ないし、挨も立たないと言ひます。丈夫なことは疊の幾倍かだらうと申します。西洋館にもいゝし、日本室にも宜い。冬は疊よりも暖かです。西洋館の扉などにも板の代りに使つて作られてありますが、一寸風流なものに見えました。駿河臺の前田眼科病院では可成り色々なことに應用してあります。

十二

## 化粧問答

問　私は非常な汗かきで、是れから先き汗疹や股擦で大層難儀を致しますが、何か豫防法は御座いませんでせうか。（長崎　若綠）

答　汗抑へとしてもタヾレ止めとしても、一番よくきくのはクラブ天瓜粉で、此の天瓜粉は汗や脂を吸收して水分の蒸發を促し、肌溫を冷し、充血を退ける作用を具へ、皮膚に淸凉の快感を與へますから首筋・腋の下、腰の邊、股、其のほか汗の多い部分へ之を打つて置きますと、汗疹やタヾレを防ぐことが出來るばかりでなく、盛夏の候でも一味の淸風衣襟の間に生ずるを覺え非常に爽快な感じを與へます。尙ほ足袋の中や靴の底へ振つて置きますと、足のほてりや脂の出るのを止めることが出來るので、近來老若男女を問はず盛んに賞用されるや



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 暑氣の此頃

## 喜ばれる食品

某食通

これから暑氣に向つて、食事があまりすゝまない時などには、「なめ味噌」類や佃煮が喜ばれます。殊になめ味噌は大根、人參の如きジャスターゼ分を多量に含んで居る野菜類を混えて作るものですから、自然に消化を助けて食慾を起させて參ゐります。其の作り方の最も手輕に出來ますのは次の如くです。

□なめ味噌　いゝひしを味噌と云つて漬物屋に賣つて居る味噌（百目七錢位）を買つて來て左の野菜類を混ぜます。先づ茄子は一寸薄鹽で押してから刻みます。漬物屋の鹽押しですと少し辛過ぎますから、暫らく鹽出しを致します。これに人參、大根、蓮、蕪、（これは生のまゝよりも一寸乾した方がよろしい）午蒡を細かく刻み、ざつと茹でゝ水を切り、すつかり冷める迄で其のまゝにして置きます。冷めましたらば野菜の倍位ゐの分量のひしを味噌を入れて掻きまはします。其の中に假に味噌三百目として味淋、醬油各三勺位ゐ宛、水飴（なければ砂糖）を適宜に加へ、辛子及び鹽の加減は人々に從つて違ひませうが、これからもちをよくさせる爲めには少し辛目になる位ゐ入れて充分に掻き混ぜ壜か瓶の中に入れて置きます。普通のなめ味噌のやうに幾日も置く必要はなく、明日からでもお甘しく頂けます。

然し氣の付いた時、日に二度でも三度でも時々上から下へと掻き混ぜると味がよくなります。これは長い時間火にかけて練らないで濟みますから、少しづゝ時々作つて食卓に添へる事が出來ます。

□鰹の佃煮　鰹を五六分角の賽の目に切り、これを蔽ふ位ゐに醬油を入れ、其の上に薄く切つた生姜を入れて汁がなくなる迄煮つめますと、つやつやと輝が出ます。其の頃火から下しますと肉がしまつてお甘しくなります。醬油が少ないと輝が出ないで、煮上つた色が惡く且つ魚の臭味があつていけません。これと夏向きのお肴には淡白してお甘しいものです

□昆布の佃煮　板昆布を火にかざしながら砂を綺麗に取り、短册形に鋏にて切り、鍋に入れて初めから中々に醬油と水を入れて、炭火で緩々と煮ます。煮詰つてまだ堅いやうならば醬油をさし、湯をさして、程よくなる迄煮詰めます。昆布は初め水につけると、味が惡くなる許りか、堅くなつていけません。初めから醬油に鹽を入れる方もありますが、昆布に付いて居る鹽氣で充分であります。


**大島バタ通信販賣**

東京灣三十里の東にある空氣淸新、四季綠草なもて覆れたる天與の酪農地伊豆の大島に産せる純良、風味卓逸、心地よき黄金色の最上バタを試みられよ

定價　半斤　金五十五錢　壹斤　金壹圓

東京銀座二ノ十二紀伊國橋

佐野商會

電話京橋一四四番
振替東京三四九六二番



うになりました。

問　水の荒い故か、顔や手先がザラザラして困ります。簡單に水を軟げる方法がありましたら、御敎示を。（仙臺　躑躅）

答　硬水（例へば井水の如き）は概して皮膚を荒す傾きがありますから、成るべく軟水（例へば水道の水の如き）をお使ひになる方が宜しうございますが、併し事情の許さぬ所では、井水でも構ひませんから、顔や手先をお洗ひになる際、クラブ洗面香水を五六滴垂してお使ひになれば宜しうございます。そうしますと、水も軟らぎ、洗つた後の皮膚も柔滑して、其の上に何とも言へぬ床しい香りが身の邊に漂ひます。尙ほ荒れ方の甚だしい場合には、一番よくきくアレ止め美身劑のクラブ美身クリームを平生お用ひになれば、冬でも夏でも荒れ知らずで御座います。（廣告）


十三



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 自然兒（六）

## 知らない家（上）

琴子

**小**屋から、少し離れた處に、百姓家がありました。主人のハアレーは、お神さんと戸口の椽臺に腰掛けて、休んでゐました。

丁度、月夜で、向ふの方は銀のやうな光が、薄くかすんで、小屋が繪のやうに、美しく見えてゐました。

何か、思ひ出して、ハアレーが立ち上ると一所に、何處からか、ヴアイオリンの細い音が聞えて來ました。

お神さんがビックリして

「ね、何だろう？」と言ひました。

ハアレー、はヂッと立つて、聞いてゐました。

「ア、胡弓！家の小屋からだ！」

お神さんは、ブル／＼して又言ひました。

ハアレーは、默つて家の中へは入つて、提灯を持つて來ました。

「お前さん。よしておくれよ！何が居るか、解らないよ！」

「人が居なくつて、胡弓が引けるかい。」

「今日、道に變んな爺さんと子供がヴアイオリンを持つて、居たよ。彼奴等に違ひない。だけんど、如何してこんなに、早く來たかなあ．あんな、うろつき者なんかに、は入られて、たまつたもんぢやねえ」。

ハアレーは小屋の方へ出かけて行きました。お神さんも、こはごは、從いて行きました。

小屋の内は、ヴアイオリンの音で一杯でした。

ふと上の方を見ると屋根から、入つて來る月の光に照らされて、寝て居る人の顔が、積み上げた、草の上に白く見えて居ました。

急にヴアイオリンの音が靜かになつて、

「ア、をぢさん。そーつと！そーつと！くたびれて寝てるんだよ！」

十四

「何だいお前は？何を此處でして居るんだい？」

「をぢさん。お願ひ！小さい聲で言つて下さい。僕デビッド。これ父さんなの。くたびれて居るから、僕此處へ連れて來て、寝せたの」。

ハアレーは提灯を、さしつけて父さんの顔を見て居ましたが、そつと體にさはつて見て、何か驚いたやうに急に手を引つ込めました。

「お前、なんだつて今時分ヴアイオリンなんか、引くんだい？」

「だつて、父さんが、引けつて言つたんだもの。父さんは青い森だの、川の音だの、鳥の聲だの聞きたいつて言つたんだもの僕聞かせたのさ」。

「お前、何處から來たんだい？」

「家から」。

「家つて何處だい？」。

「ずつと山の上のほーうなの。此處よりずつと美いとこなの。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

天が高くつて大きいや」。

父さんの白い顔を見つめて、言つたデビッドの聲は、今にも泣き出しさうでした。

ハアレーは、急に思ひ出したやうにお神さんに

「オイ。この子を家へ連れて行きな。今夜は宿めてやらにやなるまい。爺さん死んでるよ」。

「エ？父さん死んだの？」

デビッドは不思議さうに、父さんをさはつて見てゐましたが暫くすると、嬉しさうな顔になつて來て

「父さんは、僕に引いてくれつて言つたから、歌ひながら死んだんだ。きつとあの川のやうだ」

と言つて居ました。

二人は何んの事やら解らずに目をみはつてデビッドを見て居ました。

お神さんは、涙をふきながらデビッドを引つぱつて、家へ連れては入りました。

「お前、お腹がすいてるだらう。」と言つて、テーブルの上にパンや牛乳や、ドウナツトなどを列べてくれました。

「お前、なんて言ふ名？」

「僕、デビッド」。

「何デビッドだい？」

「たゞデビッドなの」。

「お前の母さんは？」

「母さん？父さんのポッケットに居るの」。

「エ？」

「をばさん。解んないの？僕の母さん天の使ひになつたの」。

それからまだいろ〳〵、家の事や山の事や、お神さんはやさしく聞いては、涙をふいて居ました。

其内「お前、眠いだらう。」と言つてお神さんが寝床へ連れて行つて來れました。

デビッドは、初めて、知らない家で寝たのでした。

そして、山の事を思ひ、父さんの事を考へ、ヴァイオリンを持つたまゝ、赤坊のやうに泣き寝入りに寝てしまひました。

## 世界の子守歌

### (三) 獨逸

ねんねをし〳〵、微風が静かに吹いて居る間、
ねんねをし〳〵、小川が静に流れて居る間、
ねんねをし〳〵。

ねんねをし〳〵、森で鳥が唄つて居る間
ねんねをし〳〵、甘い音樂が鳴つて居る間、
ねんねをし〳〵。

ねんねをし〳〵、天使が平和を守つて居る間、
ねんねをし〳〵、天使が永遠の祝福を祈つて居る間、
ねんねをし〳〵。

### (四) 同

お寝りよ子供、お寝り、
父さまは羊を守り、母さまは夢の國の木を揺つて居る。
小さい夢がお前の爲めに落ちるやうに、
おゝねむれ、子供
ねむれ子供。

お寝りよ子供、お寝り、
天には羊が一ぱい居ます、
小さい星は男の羊飼で、
輝く月は女の羊飼です、
おゝねむれ、子供
ねむれ子供。

お寝りよ子供、お寝り、
羊飼の犬よお前は行つて羊を守れ、
私の赤坊が眼を覺ますから近くへ來てはいけない、
おゝねむれ、子供
ねむれ子供。





Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小説

# 雜草（七）

茅野雅子

眠りながら泣いてゐた姑の、世にも頼りなげな寂しい顔を見てから、お久の心は全くお民の方へ向いて了つた。姑が來てからの生活が今更らのやうに顧みられた。何一つとしてお民の心に滿足を與へたらしい事は思出されなかつた。勝江の爲に拵へてやつた一重の春着も、柄とか色とか云ふ點で、好みのちがつたお民の心に叶はなかつたかも知れなかつた。それからそれと一つ〳〵考へ續けると、姑が自分に對する不滿の心は意想外に大きくなつてゐるやうにも思はれる。後になつて思出すとあゝしたらよかつたらう、斯うもしたら姑の心に叶つたらうと思ふことも、さていよ〳〵其場に當つて見ると左樣はゆきかねた。思ふことを抑へたり、言葉を飾つたりすることは第一お久の性情に反したゐた。お民も其ことは全く知らないではなかつたものゝ、流石に好い心持はしなかつた。斯うして此儘に續けて行けば二人の間は日に日に遠くなつてゆくよりほかはない。お久はそれを思つて焦々した心持になつた。今迄は氣に掛けなかつた姑の一寸した言葉尻迄が心配の種になつて來た。

『貴君、私今日も亦た一つお母さんの御機嫌をそんじて了つたのです。』

そういふ話を健次は日毎に聞かなくてはならなかつた。

『そんなに氣にかけるには及ばないよ。さう一々年寄の氣に入るやうにばかり出來るものじやあない。』

『併し私の眞心が一寸も通らないんですもの、それどころか却つて惡い結果になるのです。』

終には健次も沈默つて了つた。それがお久には自分に對する非難のやうにしか思へなかつた。『お前は自分を顧ることが足りないのだ。夫にそんな泣き言を云ふ前に何故自分の愛の足りないことを思はないのだ。』健次が默つてうつ向ひてる眼はお久にさう云つてるらしく思はれた。

『さうだ、愛情が足りないと云はれゝば私には何と云つて返す言葉もない。』

實際お民に對してお久が持つてるものは、愛といふよりは寧ろ憐愍の情と義務の心とであつた。家政の支配者であつたものが俄かに其特殊な權利を失つて了つた寂しさ、唯一人の子である健次をばお久に奪はれて了つたといふ嫉妬、更に又老年が青年に對する一般的の羨望呪咀、



生活狀態の相違から來る不快と不安夫等の種々の苦痛に惱まされてゐる姑の心の遣瀨なさに對しては可なり深い理解と同情とを持つてゐた。併しそれはお民の上には最う回避することの出來ない運命になつてゐる。最う殆ど何うすることも出來ない。それだけに一層氣の毒でもあり、健次の妻として出來る丈けその運命を慰めて上げる義務がある。お久は唯々この義務と憐愍の心に縛つて姑に仕へて來たものゝ、未だ愛情といふやうな強い力を少しも感じては居なかつた。その昔、健次とお久とを結付けたやうな熱烈な愛は云ふ迄もなく、與へても與へても空しさを覺えないやうな子に對する愛のやうなものも姑に向つて持つことはできなかつた。たゞそれ許りではなかつた。自分が繪に對して持つてる丈けの愛著をさへ果して持つてゐるだらうか。疑へばそれさへ疑はれた。

『畫は自分に酬いて呉れる。併



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し姑は必らずしも左樣ではない。』お久はそんなこと迄考へて自分が何處まで自利的だらうと驚かずにはゐられなかつた。

『何とかして別居する方法はないでせうかねえ。』

思ひ餘つて斯ういふお久の嘆息は愈々健次を不快にする許りであつた。

『さう外部にばかり解決の路を求めないで、最う少し自分の內に新らしい路が展開されはしないかねえ。』

耐え切れないといふやうに健次はとう〳〵非難の言葉をお久に聞かせるのであつた。

『自分が愛されやうとか、よく思はれたいとか、理解を强ふるとか、さう要求的な態度で出るから腹も立ち失望もするのじやあないか。出來る丈けのことを盡して、それでも先方の氣に入らなければしかたがないさ。最うあれ丈けの年を取つてゐては兎ても我々の世界を理解する力はないんだからなあ。』

併しお久は左樣ばかり思つてはゐられなかつた。酬いられない好意や、理解されない同情を之れから幾時までも續けてゐるといふやうなことは想像する丈けでも耐へきれなかつた。

『そんな神樣のやうな心になれるものじやない。いやだ厭だ。私は最う何うしても此儘で續けて行くことは出來ない。畫をかくことがいけなければ畫を捨てゝもよい。着物が贅澤だといふのなら何んな物をきてゐてもかまはない。

お母さんが別居することが出來ないのなら自分獨り何處かへ下宿したつていゝ。』

お久はそれ程までに取りつめて考へた。

* * * * * * * * *

## 新刊紹介

□婦人雜誌（七月號）婦人の思想を導く上の、名家の說に見るべきものゝ如く、「母體の改良」題下に學者實際家の說を集めて居ります。これ等の外殊に見るべきは高野重三氏の「山川總長の御演說を許す」といふ長文の論說で、堂々婦人界の爲めに大氣焔を擧げられて居ります。（一册金二十錢、神田區鈴木町十六佐藤出版部）

□女中問題號（婦人之友七月號）現今家庭の問題とする女中に就て各經驗家の說を集めて居ります。三宅雄二郎博士の下女問題は讀むによく、山下榮藏氏の洗濯法は家庭記事として異彩を放つて居ります。（一册二十錢、東京雜司ケ谷上り屋敷婦人之友社）

## 東京だより（十一）

### 金魚賣り

▲入梅になつてからは毛のやうな細雨が煙つて、暗く、むし暑く、じみ〳〵した日がつゞきました。うつかりすると室の隅などに蜘蛛が巣をくつたりして、坐つてゐる疊の上など冷たいやうで薄ら氣味惡く感じられてゐましたが、此の二日ばかり珍らしく、晴れて、白い雲の間から、碧い大空を見せて居ります、そしてほんとに夏らしく、晝頃になると刺すやうに暑くなります下女達は競つて洗濯し、涼しさうな水音をたてゝゐます、入梅晴れ、ほんとに氣持のよい入梅晴れです。

▲こんな日の午後になるときつと金魚や金魚賣りに來ます。淺い大きな桶や硝子の瓶の中にいろ〳〵の金魚を游がせ、靑い水草を浮ばせてゐます。大きな金魚や小さい金魚達は、水草の間を彩るやうに、大きな尾を重さうにふつて游いでゐる。金魚やは、木陰の井戶端などに出會すと、きつと冷たい水を汲み上げて注いでは、白日の街上を街から街へ、怒鳴つていきます。

金魚、目高、金魚――
一年子、二年子、三年子。
太郎さん買ひな、次郎さん買ひな。
お宅の池へ放しさけ。

などゝ彼等はぶつきら棒に怒鳴ります、が夫れが却つて眞晝の街に如何にも夏らしい情趣をそゝつてゐます。風鈴うりや河鹿うりの出るのも都では程ないことだらうと思つてゐます。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 時事

◉英國の婦人參政權可決　英國下院は五十五對三百八十五の多數を以て、婦人に參政權を附與する事を可決しました。英國の婦人參政權問題は古い歷史を有するもので、千八百六十七年選擧法改正の當時に於て、有名な經濟學者ミル氏が、熱心に婦人參政權の附與を主張した時から始まり、彼のホーセット夫人等は其の當時から盛んに運動をして、千八百七十二年遂に公立小學校の學務委員に婦人が參加するの權を得たのです。これが婦人參政の第一歩であつたのですが、千九百三年に至つて學務員を廢止する事になり、婦人は既得の參政權を失ひましたが、同五年自由黨內閣が成立すると同時にバンクハースト夫人母子等は猛烈な運動を開始し、あらゆる壓迫に反抗して運動を試みましたが、まだ獲得の期に達しませんでした。然し歐洲大戰の勃發によりて、婦人の實力も充分認められ、此處に年來の宿望は容れられました。けれども何人にも權利を附與すると云ふのではなく、男子と同じく社會上に働いて居る婦人で、幾歲以上のものに限ると云ふやうな制限が附せらるゝ事であらうと思はれます。

◉李內閣成る　四面楚歌の聲に包まれたる北京內閣は今回李經羲等に依つて統べらるゝ事になりました。氏は故李鴻章氏の甥に當り、名門の出を以つて早く官海に身を投じ、片馬問題七府鑛山問題等に關し、英佛二國との交涉宜しきを得て、外交上の手腕を認められ、故袁世凱等の親友の一人として重く用ひられて居りました。氏は特に八方美人主義の人であつて、老猾李仲軒などゝ稱して毀譽するものもありますが、今日の如き時局に於ての內閣には適任者であると申されて居ります。

◉米國遣日使節特派　米國大統領は歐洲戰の目的に關し、日米兩國同の一層親善な諒解を計り、又戰爭に對して最も有効な協同を爲すには如何にすべきかを討究する爲めに近く第一流の人物を特使として日本に差遣する事になりました。これは丁度我國の石井特使が米國に到着する頃と殆ど同時に(即ち八月頃)東京に到着する筈である由です。

◉帝國議會召集　第三十九回帝國議會は廿一日を以て召集せられ、貴族院は即日部長理事の互選を行つて、本院の成立を政府並に下院に報告しました。衆議院は正副議長の互選を行ひ、議長正四位勳三等大岡育造氏、副議長勳三等濱田國松氏を推し、直ちに任命がありましたので廿二日同院の成立を見、廿三日に愈々開院式は擧げられました。

◉讃岐丸の敵艇擊沈　郵船會社第二武裝船讃岐丸は十五日英佛海峽に於て、敵潜航艇の襲擊に過ひましたが、砲門を開いて美事に敵艇を擊退し、沈沒せしめたらしうございます。同船は千八百九十七年英國の建造になつたもので、郵船會社の歐洲航路を開始した初期の客船でありますが、數年來は、貨物船に使はれて居る五千七百四十九噸の船です。宮澤清熊氏は船長として紫波幾馬氏は機關長として三月三十日、世界一周の豫定で橫濱を出帆したのださうです。

◉倫理の講師となつた澁澤男　昨年實業界を引退した澁澤男爵は、終生の事業として專ら教育、慈善事業並に資本と勞働との調和、國交等に盡力したい希望を洩らして居られましたが、其の第一着手として最も緣故の深い東京高等商業學校の倫理科の一部を擔任し、無報酬の名譽講師として、月一回二時間宛實踐倫理の講演をする事になりました。

◉東大名譽教授と新學士院會員　二十二日 正三位勳一等理學博士田中舘愛橘氏は東京帝國大學名譽教授に、從四位勳三等文學博士服部宇之吉氏は 勅旨を以つて帝國學士院會員を仰せ付られました。

◉左陣翁逝く　能樂界の重鎭たる櫻間左陣翁は尿毒症にて 二十四日逝去しました。享年八十三。翁は櫻間家の十五代目として生れ、故梅若實、寶生九郎と共に能樂界三名人の聞えがあつた 金春流の大家であります。七歲にして初舞臺を踏み以後七十七年間能を演ずる事 千七八百回に及び、 其の間屢々 天覽能の光榮に浴しました。

◉府立の托兒所　東京府下現在の托兒所は六箇所ありますが、これ等は皆小規模のもので、毎日千五六百人位の收容力しかありません。關西地方を見ますと、大阪、京都、名古屋、神戶の各都市には何れも大規模の托兒所があつて、勞働者の爲めに非常な便利を與へて居ります。尙ほ昨今は勞働人夫拂底の折柄、東京府下に於ても愈々大規模の托兒所の必要を認め、丹羽理事官をして 廿三日來 市內の貧民窟を視察せしめて居ります。これが着々其の歩を進めて實現を見るに至れば 人夫人足の勞働率も一層增進するやうになりませう。

◉會長副會長決定　廿二日午後零時半より麴町區牛ヶ淵の愛國婦人會で廿日新に選定された理事十名即ち濱尾男夫人作子、小笠原伯夫人貞子、龜井伯夫人久子、關むら子、山脇房子、高木こう子、柳谷きよ子、鳩山春子、古市孝子、有馬幸子等出席の上、理事會が開かれ、會長並に副會長を理事中より互選しました結果、滿場一致で會長東宮大夫男爵濱尾新氏夫人濱尾作子、副會長伯爵小笠原長幹氏夫人小笠原貞子の二人が推薦され、廿六日總裁閑院宮妃殿下に此旨御聽許を奏請する事になりました。

◉本野外相母堂逝去　本野外務大臣母堂鏃子刀自(八〇)は、二十二日午前三時突然昏睡狀態に陷り、同七時遂に萎縮腎臟炎にて逝去されました。刀自は父君の讒に遇ひ國を追はれし際人となり、辛苦を嘗められました。廿三歲の時盛亨氏を婿君として迎へられ、後幸にして權太夫氏の無實は晴れ、本野家は再興の氣運に向ひましたが、夫君勉學の爲めに大阪或は長崎と各所





Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に遊學せられ、刀自は後の一切を引き受けて、專ら子女の教養に當り長男子爵法學博士一郎氏、次男工學士英吉郎氏三男工學博士亨氏、四男工學士精吾氏、長女男爵岩佐新氏夫人ふじ子氏等をして、今日あらしめた賢婦人であります。葬儀は廿七日青山齋場に於て佛式により擧行されました。

## ◉杉浦女史陞叙

富美宮、泰宮兩內親王殿下御用掛でした杉浦東京音樂學校教授に對し、「陞叙高等官六等」の旨二十三日辭令がありました。

## ◉異鄕へ赴任する兩女史

印度婦人の手藝講師として聘せられた村井豐野女史(二四)は共立女子職業學校刺繡科の出身で、セーロン島のコロンボ市に新設された官立女子手藝學校の講師として廿三日鹿島丸にて渡航しました。女史は廣島縣の出身で、大正二年職業學校卒業後は京都鉄屋町の臼井刺繡工場で實地に就て今日迄研究をして居たのです。△母の住むホノルヽへ　七月三日出帆する春洋丸で向ふ星出増代女史(二三)も同く職業學校を昨年卒業した人で、今度布哇ホノルヽの日本民國立女學校に教師として招かれました。女史は山口縣の出身で幼時父を失ひ、母君は現にホノルヽの某ホテルに働いて居られる由ですから、女史の來航をどんなにか喜ばれて居りませう。女史の任期は五六年との事ですが、母君の關係もあり旁々場合に依つては一生布哇に暮し度いと云つて居られます。

## ◉市子上告す

神近市子は十八日東京控訴院に於て懲役二年の宣告を受けましたが、右宣告を不服なりとし、廿日辯護士鈴木富士彌氏を代理人として上告の手續を致しました。

## ◉光榮をになひし交換手

今回宮內省に電話局の新設されたのは既報の通りですが、これが交換手として光榮を擔ふ人々は左の十三名です。

本局伊與田イト、同林はる、番町土肥しづえ、本局金橋よね、同笹森さかへ、番町本多トク、同下田ノブ、本局峯尾靜惠、新橋三添ふさ、本局熊谷ます、同今村豐子、新橋永井むめ、同小山たけ、

右の內伊與田は晝の部長に林は夜間の部長に選ばれました。月給は從前よりも多少增額し、十八圓を最高に十圓迄の各級に分れ、宿直料として每月三圓宛外に年末賞與なども與へられる事になりました。

## ◉白國兒童の爲めの慈善市

獨軍の爲めに蹂躙された氣の毒な白耳義の兒童の爲めに教育通信社が主催した教育慈善市は二十三日から三日間市內高島屋吳服店に開かれ、東京女高師を始として府下五十三の女學校は其の特種の技藝品を出品致しました。

## 女學校だより

△共立女子職業學校　御大典の記念事業として此度寄宿舍の地つゞき五百坪ほどの地を三萬圓で購ひ、これに木造の二階を建て、割烹、洗濯、家政などの研究室にあてるのださうです。この資金は凡そ三萬三千五百圓ほどですが、內、五千圓は實業家山下龜三郎氏が寄附され、殘金は此夏休み中に各地にある同窓生達が奮つて寄附をするとのことです。從來、同校の寄宿舍は地方出の女學生が多いにかゝはらず、二百人ほどしか收容する事が出來ませんでしたが、此度の增築が出來したあかつきは三百人位、收容する事が出來るとの事です。

△東京女子高等師範學校　廿五日、地久節の式を擧げ、夜は例に依つて祝賀の茶話會を開きました。當日は新校長湯原氏歡迎の意をも含め、種々の餘興をも加へて賑々しうございました。

## 夏期の講習會

△日本女子大學校櫻楓會主催にて七月廿二日から開かるる講習會の科目及び講師は下の通りです。英語(岸本能武太、松浦政泰、長澤俊子、丁香子、)料理(巽鐵男)西洋裁縫(ガンドレット恒子)投入、盛花(都筑宗吾)刺繡(中川止留以子)家事實習(若原榮代)

△兒童教養講習　府下目黑權助坂下兒童教養研究所にて、來八月一日より六日まで開催。講師は三田谷ドクトル、黑田文學士、久保ドクトル、唐澤醫學博士、巖谷小波、二階堂トクヨ、永井醫學博士、吉田文學博士、乙竹高師教授の諸氏です。

## 個人消息

▲矢島楫子　關西遊說中の女史は大阪婦風會長林歌子女史を伴ひ廿七日歸京

## 編輯室より

▲梅雨時の暑さは、濕氣を帶びて居る爲めか、堪難く覺えます。風入りのよい編輯室も、この兩三日八十七八度に上つて居ります。▲しかも週每の編輯は寸時も手の弛む事を許さず、同人一同は「暑い」と云ふ暇もなく筆をとつて居ります。


# 人事相談所

□本所は婦人週報社の附屬事業として、世の煩悶に惱める男女に同情し、精神上、生活上、其他有ゆる相談に應じ、最も善き解決を與へます。

□本所は絕對秘密の下に、結婚調査、人物調査、財產調査、男女學生品行調査、裁判上の證據調査等の御依賴に應じ、親切と誠實を以て其の任に當ります。但しこれは依賴者が至當と思はれる程の低廉な調査料を申受けます。

□本所に御相談なされたい方は、書面にて申越されるか、若しくは直接面會に來て下さい、面會時間は日曜水曜を除くの外午後零時より、午時四時迄です。

東京牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
婦人週報社內(電話番町四五六六番)

人事相談所



## 婦人週報
(每週金曜發行)

定價表
△壹部金五錢(但し郵送料五厘を含む)
△一ヶ月(四部又は五部)金二十錢
△三ヶ月(十三部)金六拾錢
△半年(廿六部)金壹圓拾錢
△一年金貳圓廿錢

廣告料
△特等(表紙の二、三、四)金參拾圓
△壹等(白紙前付)金廿五圓
△貳等(色紙の裏側)金廿貳圓
△參等(色紙の內側)金貳拾圓

注意
▲御註文は一切前金の事▲郵券代用は必ず一割增の事▲送金の爲替名宛は東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地婦人週報社▲振替口座は東京三一六六〇番▲雜誌發送を以て領收書に代ふ

編輯兼印刷人　小橋三四子
東京市京橋區銀座四丁目一番地
印刷所　福音印刷株式會社
東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
發行所　婦人週報社
振替口座東京三一六六〇番
電話番町四五六六番





Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕但祭日及日曜之他
院長診察 月、金、木午前及(木)午後六時
林、峰間兩副長は目下當院に在勤
東京三番町三十番地(市ヶ谷見附內)
電話番町 六二一番

# 東洋內科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

電話ちがさき二番

# 南湖院

(從停車塲半里)
神奈川縣茅ヶ崎海濱
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察 土曜日 午後入院診後應需
診察毎朝但祭日及日曜及土曜之他

---

大黒天印 赤 白

# 宮崎葡萄液

宮崎葡萄液ハ「アルコール」分ヲ含マズ最モ滋養ニ富ミ上戶ニヨク下戶ニモヨシ御婦人御子供衆ニモヨク頗ルオモシロキ理想的好飲料

大小數種化粧箱
商品切手調進仕候

東京市日本橋區通旅籠町
發賣元 甲斐產商店
電話浪花八七〇、八七一

宮內省御用達

---

# 耳鼻咽喉科專門

(入院隨時)

大野耳鼻咽喉科醫院

院長 大野喜伊次

東京京橋區南鍛冶町廿七
電話京橋一〇三五

---

# ◎產婦人科◎小兒科

宅診午前 往診午後
病室、產室ノ設アリ入院ノ需メニ應ズ

院長 女醫 吉岡彌生

# 東京至誠病院

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
電話番町 二二五七

---

# 英語生徒募集

高等女學校卒業生に適當の各級あり又年長者にして英語初歩より學ばんとするする者にも懇切に教授す(アピノ個人教授の需めに應ず)

英語專門私立 櫻井女塾

本鄉區彌生町三番地(電話下谷六八一五番)

---

# 產科、婦人科、小兒科

女醫 井出茂代

東京府內藤新宿番衆町卅一番地
電話番町三六七七番

---

# 松下皮膚科醫院

○診察、午前、夜間
○京橋南八丁堀櫻橋際
(電 京 二二三一番)

---

新發見

# クリーニング水

シミヌキ液

定價一瓶金廿五錢

當商會特製發賣の椿印クリーニング水は世間有り觸れたる從來の品とは全く其質を異にし當商會の技師長が多年歐米に於て實地研究せられたる苦心の結果發明したる無二の特効液にして其効力の偉大なること實に驚くべきものなり現に各國大公使館帝國ホテル等に於て愛用せられつゝあるのみならず內外朝野の貴顯紳士貴婦人向さして上中流社會の各家庭を通して一日も缺くべからざる常用品たるに依て見るも如何に理想的にして且つ實際的クリーニン液たるかを證し得て餘りありさいふべし

使用法 ブラシに着けて和洋服織地等の汚みの局部を輕く磨擦すれば如何なる汚れも立所ろに拭消す如く無くなるべし、又絹其他の薄地のものには裏面より白き布片を當てゝ其上より磨擦すれば地質を損せず變色伸縮等の憂ひなし

注意 此液は火氣のある處にて取扱ふことは勿論平生も火氣ある處に決して置かぬ 御注意あり度し

東京麹町區有樂町一ノ四
製造發賣元 椿クリーニング商會
(電話新橋一九三四)

若し此液を用ても黴屈はしからぬ場合は御一報次第早速店員參上可仕又此塲に貼用の口紙御持參の方には一割引にてクリーニングの御注文に應じます



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 大妻技藝學校 第三回夏季講習會
個人教授

一、會場 東京麹町區上六番町七番地 大妻技藝學校 電話番町一二二〇番 振替口座東京三一六〇九番

一、科目及び講師（科目イロハ順）

生花盛花投入茶の湯 久野迷峯
縫細工科 大妻一恵 本間喜美子
綿細工科 矢吹鎮徳
摘細工科 吉岡房次郎 青柳優子
袋物科 横山芳山
編物科 滋野喜代子 高橋柳子
作法科 清水類子 市守諡吾

裁縫科 大妻一恵 奥平加賀恵
儀式用折紙並に水引結方科 山内千代 大妻一恵
刺繍科 水野佐代子
絞花科 青柳禮子
塩細工科 矢吹鎮徳 大妻一恵
染絞科 平野すて 富田輝夫 椿登茂子

開催期日 七月廿日ヨリ八月卅日迄期間中ハ何時デモ入會ガ出來マス。但各科ノ講習細目ハ入會ノ日ヨリ凡ソ二週間以内ニ出來マス

時間 各科共午前八時ヨリ午後四時迄個人教授ノ方法デ教授シマスカラ何科目デモ随意ニ兼修スルヿガ出來マス

講習料 普通科金壹圓五拾錢高等科金貳圓束修不要

器具及材料 御持合セノ品ハ御持參御随意デス御持合セ無イ方ハ當校内ニ全部取揃ヘテアリマスカラ實費デ御讓リ致シマス

入會申込手續 御志望ノ方ハ入會申込書ニ希望ノ科目ヲ記入シテ會費ト共ニ入會ノ日迄ニ差出シヲ乞フ

講習證書 規定ノ科目ヲ修了シタ方ニハ講習證書を差上ゲマス

寄宿 遠方ノ方デ當地ニ御親類ノ無イ方ハ御志望ニヨリ本校内ニ寄宿ヲ許シマス寄宿料ハ一日分食費、舍費、寢具、電燈、風呂等一切デ參拾五錢一ヶ月以上寄宿ノ方ハ當校ノ別ニ定メタ規定ニヨリマス

本校在地及ビ注意 遠方ノ方ハ當市内ノ何レノ驛ニ御着キニナリマシテモ御荷物ノ配達ヲ驛ニ托セラレ電車デ靖國神社横（富士見町）迄ノ切符ヲ買ヒ求メラレ下車シテ左ニ牛丁坂ノ途中デアリマス

參觀 參觀御希望ノ方ニハ實習並ニ製作標本ヲ御覽ニ入レマス

校則並ニ講習細目 御入用ノ方ハ郵券二錢御送リ下サイ

# 麻の長襦袢

▲袖と裾とに凉しさうなドローンウォークがしてあります▲毎日洗濯しても惡くなりません▲代價は四圓乃至五圓▲袖だけならば貳圓内外▲襟だけならば七十錢から壹圓二十錢位。

# 墨繪の帶

紹、繻子、麻等にお望みの繪を書きます。片側ならば三圓五十錢。丸帶ならば六圓。

# 手拭地のカーテン

一間仕立代共一圓廿錢（郵税先持ち）

婦人週報社代理部取次
振替東京三一六六〇

# マッサージ夏期講習會

一、目的 家庭に必要なる衛生及び慰安マッサージを教授す
一、場所 牛込區市ヶ谷田町二ノ廿一松宮方（婦人週報社附近）
一、期日 自七月十六日至七月卅一日 / 自八月一日至八月十五日 / 自八月十六日至八月卅一日（日曜日を除き毎日午前二時間）
一、人員 一回十人を以て定員とす
一、講習料 金拾圓也前納の事
一、證書 講習修了者には修了證書を交付す
一、特典 講習修了者は會員として今後の藤井女醫主催の衛生講習會に随意傍聴又は研究に出席する事を得

講習主催者及主任 女醫 藤井孝子

右御希望の方は至急牛込區市ヶ谷田町二ノ十七婦人週報社（電話番町四五六六）に申込まれたし。




Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

發行所 東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地 婦人週報社 電話番町四五六八・振替東京三一六六〇



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA